

情報公開文書

聖隷三方原病院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた検体やカルテ記録を利用することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんのお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究の計画や方法について詳しくお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ記録を利用することをご了解いただけない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名]

単純 CT を用いた心房細動 Ablation 術前、術後評価の検討

[研究機関名] 聖隷三方原病院

[研究機関の長] 山本貴道

[研究責任者] 松崎翠 (画像診断部・診療放射線技師)

[研究の概要]

■ 目的・方法 (研究期間も含む)

研究期間：2023年10月10日～2023年11月末

本研究は通常診療時に取得した情報を用いた後ろ向き研究です。

目的は、心房細動 ablation (アブレーション) 施行時は通常、検査の前後で造影剤を用いて心臓 CT 検査を行い、CT 画像から左心房、肺静脈、左心耳、食道を重ねた 3D 画像を作成し、作成した 3D 画像を心房細動 ablation 中にガイド下で Map として用いています。

また、左心房の容積を算出し、心房細動 ablation の術前と術後で比較することで治療効果を判定し、経過を観察しています。しかし、慢性腎臓病や造影剤アレルギー患者など造影剤禁忌症例は、造影 CT 検査を行うことができないために治療を断念する場合も散見されています。心房細動 ablation は、他検査と比べ線量が多い手技であるため、術前後の CT 検査はできるだけ被ばくや造影剤を用いない低侵襲な検査の実現が必要です。今回の研究では、単純心臓 CT と造影心臓 CT でそれぞれ容積を算出し、その有意差を求め、単純心臓 CT を用いた検査フローが実現できるか検討を行います。

■ 対象となる患者さん

2023年4月から2023年8月までにアブレーションの前後で単純心臓CTと造影心臓CT検査を受け、左房測定を行った29症例

■ 研究に用いる試料・情報の種類

試料：なし

情報：CT検査における画像データ

[問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先]

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院

松崎 翠 画像診断部

電話 053-436-1251 FAX 053-438-2971